

2023年度 事業報告

特定非営利活動法人 ふえっこ自然村

事業期間

令和5年 4月1日～令和6年 3月31日

私たちは、丹波市山南町にある笛路村で里山の保全活動を行いながら、地の利を生かした共育(教育)活動を行っているNPO法人ふえっこ自然村です。

里山保全では、広葉樹の植樹を20本、子どもたちと田んぼや畑作業をするなどして多様な生態系を守っています。

また、共育活動では二歳児クラスが今年度新たにスタートしました。そのため、ようちえん、楽校を合わせると2～12歳までの子どもたち(約20～25名程度)が週四日間同じ竹岡農園の敷地を拠点として活動する形となりました。(厳密にはそれぞれが各自のフィールドに分かれて活動しています。)

こうした環境の中で、子どもたちは上の子に身守られている安心感と、下の子からお手本として見られているよい緊張感の中で日々の生活を過ごしています。

開校2年目となったオルタナティブスクール里山楽校では、毎年の行事や日常活動が安定化していきました。10歳以上の子どもたちを、楽校活動を一緒に作っていく存在として「遊びのリーダー」として位置付け、全員がリーダーになるように、楽校のみんなを引っ張っていっていく存在としてたくましく成長しました。一年間の集大成の閉校式ではリーダーだけでなく全員が主体性を持って、ダンスや会場作りに参加することができました。

ようちえんでは、開園5年目を迎え、里山ようちえんふえっこにおける大切にしたいことがスタッフ間に共有されるとともに、子どもたちのコミュニティ(3～5歳児)がかなり安定した形になってきました。

今年開園した二歳児クラスでは、個々のペースに合わせて自然にたくさん触れて遊びきることを大事にして、朝の登園から帰るまでの一日の流れの大枠を作っていました。そのなかで子どもたちは、友だちや自然からたくさんの刺激をもらいながら、様々な場面で甘えと挑戦を繰り返しながら毎日を過ごしています。

また月に一度、保護者発案のワークデイ(草刈り)が開催され、里山の保全活動がより多くの
人に広がる形となりました。

年末の収穫祭では2歳児・ようちえん・楽校が一体となってお餅つきを行い、親子共に連携の
取れたコミュニケーションの中で美味しくお餅を食べ、ふえっこコミュニティの温かさや良
さを感じることができました。

このように、里山保全を行いながら、子どもも大人も自然の中で育っていくようなコミュニ
ティに向かって成長しています。

○来年度に向けて

・来年度は中学生が増えるため、里山保全や共有活動の運営側の仕事に関わる機会を積極的
に作ることを検討しています。

・ようちえんや楽校の保護者の方を、積極的にコミュニティのメンバーとして採用し、ふえ
っこコミュニティに深い理解のあるメンバーを育てます。

・ふえっこの活動(親子クラス、ようちえん、楽校)をもっと多くの人に広く知ってもらた
め、YouTubeやInstagramなどの広報に力を入れていきます。

○里山ようちえんふえっこ

内容：森のようちえん

活動日：火曜日～金曜日

対象者：3歳児～5歳児とそのご家族

○里山楽校ふえっこ

内容：オルタナティブスクール

活動日：火曜日～金曜日

対象者：小学生、中学生とそのご家族

○連携グループ

株式会社 竹岡農園

2023年度 里山ようちえんふえっこ 活動報告

里山ようちえんふえっこは、山南町谷川にある笛路村、竹岡農園の敷地を活動拠点として毎日自然の中で遊んでいます。

散歩をして草花遊びをしたり、畑で育てている野菜を収穫、または食べられる野草を何種類も摘んで野外調理をしたり、夏には川遊び、冬にはたき火などをして、季節の遊びや手仕事、また木工製作など、自分達の身体や手を動かして遊び、幼児期に五感をつかって遊ぶことを大切にしながら活動しています。

○幼児クラス

立ち上げから5年目となり、活動内容や保護者を巻き込んだの行事など、固定化されてきたものも増えてきました。子ども同士の関係性の中で様々な経験をすることができました。

【人数】5歳児 3名、4歳児 4名、3歳児 1名 計 8名

【活動日、時間】火曜日～金曜日 9:00～15:00

○親子クラス

8年目となった親子クラスは昨年に引き続き、お母さんたちでやりたいことを共有しながら、代表のお母さんを中心として活動を進めています。季節の手仕事や野外調理などをしながら交流する場となっており、お母さん自身が楽しんで参加して、子どもたちも自然の中で思いっきり遊んでいます。

【参加組数】10組

【活動日、時間】金曜日 10:00～13:30 (月3回の活動)

○幼児クラス活動内容

【1学期】

(入園式、親子散歩、野草料理、泥んこあそび、田植え、遠足、梅の収穫、川あそび、ボディペインティング)

春は草花遊びを存分に楽しむことができました。野遊び名人と野草の天ぷら、草花を摘んで母

の日のプレゼント作り、草花のクッキー作りなども行いました。

田植え前の田んぼで全身をつかっただけの泥んこ遊びを思いっきり楽しむことができました。

また村の方の敷地で梅の収穫をさせてもらい、脚立に登って梅をもぐ子、下で受け取る子、カゴや道具を運ぶ子など、年長児を中心に役割分担がなされていて、2年間の経験の積み重ねによつての姿だと感じました。

夏の川遊びでは生き物を探したり、沢登りをしたりしながら身体をつかっただけ遊びました

深いところもライフジャケットを着て泳ぐなど普段の活動の経験を元に、チャレンジすることができました。

また、ボディペインティングはフェイスペイントなども楽しみ、普段とは違った経験もすることができました。

【2学期】

(夏季保育、月見団子作り、染め者、親子登山、稲刈り、お話し会、運動会、福知山動物園遠足、お泊まり保育、おもちつき、クリスマス会など)

夏季保育は通教のプログラムと変更し、プール、魚が滝キャンプ場など夏ならではの遊びを楽しみました。

黒井城跡での親子登山は前年も一緒に登った保護者からは、お子さんの姿を見て昨年からの成長を感じたとの声もあり、継続していく事の価値を感じました。

稲刈りでは、1学期に田植えをしたものを刈り取り、稲木に干す作業も体験しました。

運動会は里山楽校の児童と合同で行い、参加の子どもが0歳～12歳と幅広い年齢層で行いました。

お泊まり保育では、野外調理でパン、シチュー作りなどをして夕食を作りました。また五右衛門風呂も自分たちで焚き、湯加減をみては火を調節するなどの姿が見られました。夜にはキャンプファイヤーや星空観察、翌日は山登りのレクリエーションなどを行い、友だちと過ごす1泊2日を楽しみました。

今年度初の試みで、外部の講師をお招きし、お話し会を開催しました。ふえっこの共育事業に興味のある方、現保護者などを対象に、森のようちえんにおける子どもの発達、幼児期から児童期における自然の中での教育の重要性などを多方面からお話し、考えを保護者と共有する時間となりました。

おもちつきはふえっこの収穫祭とし、マルシェ、お神輿などのコンテンツもあり、普段の関係者の方々、自然のめぐみに感謝する日となりました。

【3学期】

(味噌作り、醤油づくり、イス作り、お別れ会、卒園登山、卒園式)

例年取り組んでいる味噌づくりを今年も行いました。子どもの手で豆をつぶし、麴をまぜ、楽しんで作ることができました。また、今年は醤油づくりにも挑戦しました。

年長児の卒園製作として、自分のイスを作りました。今年は保護者と一緒に製剤するところから取り組み、これまで経験してきたのこぎりや金づちを扱い、自分で作り上げることが出来た経験は自信に繋がったと思います。作ったイスは卒園式で使用しました。

3月のお別れ会では、お母さんたちとスタッフによる劇「こぶとりじいさん」を子ども達の前で披露しました。子どもたちに喜んでほしいとの想いで事前に集まって練習したり、それぞれが衣装を考えたりして、始めて大人全員で1つの物を作りあげる事ができ、子ども達も喜んでいて、大人同士の仲もより深まったように思います。

年長児のみの卒園登山として親子で石金山に行きました。3年間屋外で過ごし、散歩や山登りなどをたくさんしてきたので、みんなで登りきることができ、一緒に過ごしてきた友達と登山でき、思い出にもなったと思います。

卒園式では、3名の卒園児を送り出すことができました。緊張しながらも嬉しそうに堂々と前に立つ子どもたちの姿もあり、保護者からのメッセージでも皆さん3年間の成長を喜んでおられました。

【年間を通しての活動】

○誕生会

それぞれの誕生月に、1人1人の誕生会を開きました。主役のお母さんの来ていただいて、その子産まれた時のお話などをしてもらいました。子どもたちが聞きやすいように、クイズ形式にしたり、写真をおりませたり、その子のエピソードを絵本にしたりと皆さん工夫してお話してくださいました。

○料理の日

月に1回のお料理の日として、お釜でご飯を炊き、自分たちで育てた野菜や農園の野菜を収穫して調理してお味噌汁を作る日を設定しています。毎月の積み上げの成果を実感してもらえようように、年度最後の日に保護者を招待して子どもたちの料理をふるまいました。3年間、たき火をして毎月同じ物を作る経験を重ねてきた事がしっかり活かされたように思います。

○ポートフォリオ

毎月月末に、個人の1カ月の成長の記録を書いて写真付きで保護者にお渡ししています。また保護者にもその月の家庭での様子などを書いて頂いてやりとりをしています。

子どもの成長を共有すること、園での保育の理解を深めてもらうために取り組んでいます。保護者からも様子がよくわかるとの声を頂いています。

○里山楽校児童との関わり

朝の集団登校を月一回取り入れて子ども同士鬼ごっこやボール遊びなど一緒に行いました。同じ時間を過ごす事で、小学生への憧れの気持ちが育ち、関りが深まりました。

今後、ようちえんや2歳児と関わるコンテンツを定期的に取り入れられるようにしていきたいです。

まとめ】

・幼児クラスは、入園から卒園までのカリキュラム、子どもたちの成長の様子やコミュニティの在り方などを大人も子どもも一通り経験することができました。行事の型なども決まってきた、アレンジも加えられるようになってきました。又、里山楽校の児童とも日常的な関わり、一緒に行事に参加するなど関わりが増えてきたので、今後はこれまでの経験を活かしながらその年々に合わせての変更や改善をしていくようにしていきたいです。

・親子クラスは、お母さんたちのやりたいことを中心に、自然に関することや子育てのことなど、様々な情報を共有しながら、和気あいあいと過ごしています。
梅干し作り、干し柿など、季節の手仕事なども積極的に取り入れたり、のんびり笛路でお散歩、収穫体験など農園ならではのコンテンツも取り入れました。

【今後の課題】

幼児クラス、2歳児クラス、親子クラスと人数が増えてきたので、場所の棲み分けが必要になってきました。小学生以上の里山楽校と連携を図り、里山という自然豊かな環境でのびのびと成長できる環境をより充実させていきたいと考えています。

2023年度 2歳児クラス 活動報告

今年度より、幼児クラス入園前の年齢である2歳児のクラスを立ち上げました。
活動は主に拠点である竹岡農園の敷地や笛路村において、散歩をして自然遊びをしたり、室内も併用したりしながら過ごしました。
今年度の2歳児クラスは、子どもが安心して過ごすことを目的としており、子どもは保護者とは違う親しみをもてる保育士やボランティアと同年の友だちとの関わりから安心感と刺激をもらいながら、少人数での環境のもと保育を行っていきました。

○活動日…火曜日～金曜日 9:00～15:00
○人数… 5名

《1学期》

日々過ごしていきながら、朝の登園から帰るまでの1日の流れをつくっていくことができました。
登園時は室内に集まり、落ち着いてスタートしました。おはようの会をしてお互いに名前を呼び合い返事をするを楽しむ様子が見られました。
外遊びではようちえんの拠点となる広場や、畑、その周辺の散策、砂場遊びなどを楽しみ、虫など沢山の生き物や草花に触れて遊んだり、食べられるはっぱや実を見つけて食べたりと、味わいながら、食すことのできる植物を自然と覚えていました。
夏には川や水遊びを存分に楽しみました。
昼食には各自持参のおにぎりを頂き、午後からは一部昼寝の時間を設け、室内で落ち着いて過ごすようにしていきました。

《2学期》

友だちと一緒に過ごすという集団での活動にも慣れ、個々の主張も出てきており身体も成長して遊びの様子が大胆になってきました。
散歩など外での活動を基本とし長距離を歩いて帰ってくることも出来るようになってきました。
また簡単な鬼ごっこやしっぽ取り、畑でかくれんぼなど、ルールのある遊びを取り入れ、意欲的に参加する子や様子を見つつ少しだけ関わってみる子など、それぞれの表現方法で参加しながら楽しむ姿が見られました。
排泄面で介助が必要な子はトレーニングパンツをはいたりそれぞれトイレに誘ったりして関わるようにしていきました。

後半は幼児クラス主体の運動会やおもちつきなどの行事にも一緒に参加し、雰囲気を楽しみ味わい楽しむことができました。

《3学期》

登園時には幼児クラスの広場に集まって一緒に過ごすことも多く、関わりも多くもてたように思います。

散歩では進んではとまり、葉っぱや枝、虫を観察して遊んだり実を集めたりしながら、木登りをしたり竹林を歩いたり、興味のむくものにじっくり関わる時間をしっかりとっていくことができました。

後半はたくさん歩いて身体を動かすことを大事にしながら過ごしていきました。

子ども同士お互いの存在も大きくなり、ケンカでぶつかることも多々ありますが、1年間一緒に過ごしていくなかで、自分がしたいと感じていることを思いっきり出してぶつけあうことを繰り返していくと、ケンカした後はお互いに使いたい物を譲り合ったり、ふとした時に「さっきはごめんね」などの言葉を使っていたりする姿もあり、この時期から、自分の気持ちを出した後は素直に相手のことを認めて受け入れることができるのだということを感じることができました。

《室内遊び》

天気や気候によって室内で過ごすこともあり、お絵描き、シール貼り、粘土やお花紙、新聞紙などを使った素材や感触あそび、積み木、ぬいぐるみなどを使ったままごとなどを取り入れていきました。塗り絵や、のりを使った製作なども取り入れ、素材によっては1時間程度集中して楽しむ姿も見られました。

自分たちで使ったものは大人と一緒に自分たちで片付けることも楽しみながらする姿も見られていました。

《年間を通して》

それぞれの誕生日月には、誕生会を開いて1人1人のお祝いをし、自分の番を喜んだり楽しみにしたりする様子がみられました。また絵本や歌、手遊びも好きで、何度も繰り返すことや友だちと顔を見合わせながら共有することを楽しむ姿がありました。

集団で生活をする中で、自分のごはんは自分できれいに食べる、お弁当の用意や片付けを自分でしたり、衣服着脱をやってみようとするなど友だちの刺激がある中で取り組んでいました。また散歩に行き疲れたときは泣いたり頑張ってみたりする姿もあり、色々な場面で甘えと挑戦を繰り返していきました。

少人数であり異年齢ではないため、個々のペースに合わせて自然に沢山触れて遊びきることを大事にして取り組んできました。その後の異年齢での集団生活への基板となるよう、自分のやりたい事を思いっきり出来る環境の中で、安心できる大人と関わりながら、友だちや自然から刺激をもらってあそぶことが大切と考えています。

また遊ぶ時間は思いっきり遊ぶ、食事の時間は食べる、排泄は促してあげるなど、生活のリズムは大人がつくってあげることが必要な時期でもあるため、メリハリをつけることも大切にしていきました。

《今後に向けて》

次年度は2歳児クラス入園予定の園児が2名となりました。

成長していくなかで自分の力量を感じとっていけるよう、散歩でたくさん歩くことを大切にしながら取り組んでいきます。また人数が少ないこともあり幼児クラスとの関わりをもったり、農園周辺で働く大人の近くに行ってみたりして、色々な人を見て関わりをもつようにしていきたいと考えています。

2023年度 オルタナティブスクール里山楽校 活動報告

里山楽校ふえっこは2022年に開校したオルタナティブスクールです。この楽校は一年ごとにメンバーが集い、解散します。

今年度は「みんなで作る遊びの学校」をテーマに、丹波市笛路村にある竹岡農園の里山で活動しました。全員がリーダーになるという目標に向かって活動しました。リーダーとは「何事も自ら楽しむ人」です。このテーマと子どもの姿に向かって活動しました。

活動内容は、自然の遊びを通して仲間とともに1つの目的に向かって挑戦したり、目の前のことに対して工夫や改善を加えながら、子ども達自身がお互いに関わり合う活動を行いました。その活動を通して一人一人が主体的に物事を判断し、仲間とともに何事も楽しみながら自ら主体性をもって日々の活動に関わり成長していきました。

活動日：火曜日一金曜日（9：00～15：00）

活動日数：152日間（不定期のイベントも含む）

参加人数：子ども14名（小学1年～6年、体験入楽含む）、ボランティアスタッフ5名

【日常活動について一学期ごと一】

1学期（種まき期）

一学期は種まきの時期として「遊びを通して目的を友達と共有すること」、「遊びの中でお互いを知っていくこと」に重点を置いて活動しました。開校前に10歳以上の子どもを対象に3泊4日のリーダー研修を行い、リーダーの見本を作っていました。

その後、開校し低学年も含め活動をスタートしました。最初は個人がばらばらで、各自が自分の知っている範囲内で好きな遊びをする傾向がありましたが、みんなで山や川に出かけていき、思い切り水遊びをしたり、山の中を探検したりしていく中で木いちごを見つけたり、秘密基地を作ったり、焚き火で野外調理をしたりというような遊びが出来るようになっていきました。毎日こういった遊びを続けた事で、徐々にみんなでまとまって遊ぶ事や自然の中で過ごす楽しさを知っていきました。

また、毎週の山登りにも挑戦しました。全員がまとまって上り下りできるようなペース配分や隊列を10代リーダーが中心になって考えたり、時には重たい荷物を仲間で持ち合うことで仲間の存在を意識したり、仲間同士の関係性を深めるきっかけになりました。また、山の中に看板を立てたり、頂上で見つけた天然のターザンロープで遊ぶなどして山に対する愛着を深めていきました。

他にも、竹で様々なものをつくるという事を通して、身近にあるものから自分達で道具や遊具を生み出すという経験をしました。作ったのは鉄棒やベンチ、竹のブランコや流しそうめんの台など多数です。

このように自然遊びの面白さを子どもたち自身が体感しながら、自分達のフィールドを広げていき、さらには身近にあるもので話し合いながら遊びを作っていくことで、子ども達同士でまとまりをもって思い切り遊ぶことが出来るようになっていきました。

2学期（成長期）

夏休み中の二つの大きなイベント(夜のピクニック、ふえっこマルシェ)を経た事で、日常活動以外でも仲間との関係性を作り、そこでしか得られない経験をしました。

そして2学期は新たに4名の仲間も加わり年齢の幅もさらに増して多様性が出てきました。

又、日常活動には「農作業」「朝の会」「鬼ごっこ」といった固定のカリキュラムを作りました。カリキュラムの共通の意図として「目的をもつ」「繰り返す」「みんなで」の三つがあり、毎日過ごすなかでお互い成長しあい、集団のまとまりや一人一人が思ったことを言える関係性ができました。

まず、農作業を通して物事の見通しを立てたり、役割分担をしたり、達成感を感じたりと目の前の目的に対してどう関わるかを一人ひとりが考えました。

次に朝の会では、ボールを使った言葉遊びを取り入れる事で自分の意見を言ったり、相手の話を聞いたりと遊びを通してお互いの意見を出し合う場になりました。人によって色々なものの感じ方や捉え方、考え方があるということを学びました。

そして、鬼ごっこでは毎日のようにシンプルなルールで遊び続ける事で勝ち負けを楽しめたり、年齢のハンディキャップを埋めるためにルールをアレンジしたりと子ども達が主体的に関われるようになっていきました。

また、ふえっこようちえんとの交流もあり、毎日の登校ルートをようちえん見と歩く機会も作りました。その中で車に注意したり、隊列を組んだり、安全のルールをようちえん見がわかるように伝えたりと自分達の経験をさらに生かす事もできるようになりました。

また、ようちえん行事であるお泊り保育のサポートとして子ども達からの希望制でメンバーを決め、スタッフと打ち合わせをして朝ごはんの用意をしたり洗い物や薪拾いをしたりと一泊二日の体験もしました。

合同運動会では高学年がゴールテープを担当したり大人や小学生とも混ざって競技に参加したりと保護者や楽校以外の小学生とも交流できる機会となりました。

また、一学期から引き続き継続していた山登りやリーダー会議にも外部からのゲストに入って頂いたりしたことでよりフィールドに対しての知識を広げたり、子ども達の意見を軸にした会議の進め方を学んだりしました。

2学期を通して、仲間とともに目標に向かって活動することができるようになっただけでなく、お互いにより楽しくするためにはどうしたら良いかアイデアを出し合い積極的に関わる姿が見られました。自分達で新しく考案した鬼ごっこをしたり、クリスマス会の装飾やお菓子作りなど自ら主体的に遊びを作るといことができるようになりました。

3学期 (収穫期)

3学期は「みんながリーダーになる」という目標に向かって一年をかけて培ってきたものが成果として現れました。その成果は大きく分けて二つあります。

一つ目は10代リーダーが企画した卒業遠足です。「今年のメンバーで最高の思い出を作りたい」という思いで自ら声を上げ企画しました。みんなで楽しむためにはどんなことがしたいか、どこにいくかを話し合い、目的地までの行き方を調べたり、雨天時の楽しみ方を考えたり、相談しながら計画して行きました。さまざまな話し合いを経て、自分達だけでフィ

ールドの外に出て低学年を巻き込んだ最高の思い出に残る遠足ができました。このように10代リーダーがリーダーとして育った姿が見られました。

二つ目は一年間の楽校活動の集大成である「閉校式」に向けて取り組んだことです。どんな閉校式にしたいのか全員がリーダーとして考えて取り組みました。また、合唱曲がなかなか決まらず意見がぶつかり合ったり、ダンスの練習が嫌という感情が生まれたり時にはぶつかることもありました。

その中で大切にしていたのは、私たちのテーマ「みんなでつくる遊びの学校」です。このテーマにふさわしい閉校式のために「みんなでつくる」というブレない目的を毎回確認し、話し合い練習を重ねることで、子どもたちの中に「最後の日をみんなで最高に楽しみたい」という思いが芽生えてきました。

子どもたちの成長が一番現れたのが、会場づくりです。はじめは地域の公民館でするのはどうかという案もありましたが、話し合いの末、私たちが一年過ごした里山のフィールドを会場にしようということに決まりました。

彼らが提案した場所は、里山全体が見え、最高のロケーションであり、毎日鬼ごっこで走り回った遊び場のすぐ横のところでした。しかし、伐採した竹などが積み上がり、とても会場として使える場所ではありませんでした。4月当初から何度も片付けようと声をかけましたが、一向に進まないような場所でした。しかし彼らは「閉校式」の会場をここにすると決めました。その後、全員で竹を動かしたり、土をならしたり大変な作業でしたが、音を上げることもなく主体的にいきいきと取り組んでいました。それだけでなく、自分の特技を生かした飾り付けを作ったり、放課後まで残って積極的に片付けたり、大人の手伝いを断り、私たちだけでやりたいと主張するほど主体性を持って会場作りに取り組む姿がありました。

この閉校式づくりを通して一人一人が準備から本番まで全てのことを自分事として取り組みました。たとえ準備が大変だったとしても、自分達がどんな閉校式にしていきたいかを主体的に選択してそこに向かって心を一つにできました。閉校式は、保護者、里山ようちえんふえっこのみんなに見守られながら、自分たちの一年間の集大成を表現することができました。まさに全員がリーダーとなったことを実感できる閉校式でした。

この一年間、全員がリーダーになるという目標に向かって、全ての活動の地道な積み上げがあったからこそ、最終的に子どもたちが何事も自ら楽しむリーダーに成長することができました。

【イベント活動について】

- ・リーダー研修(4/11-4/14)

- ・夜のピクニック(60キロメートルウォーク)企画(7/15-7/16)
- ・里山マルシェ2023(夏)(8/25)
- ・お泊り保育(9/28-9/29)
- ・楽校・ようちえん合同運動会(10/21)
- ・遠足(福知山動物園:11/16)
- ・修楽旅行一限界突破のチャリ旅(12/23-12/27)
- ・リーダー企画遠足(有馬富士公園:2/8)

リーダー研修(4月)

4月開校式前に10歳以上を対象に3泊4日のリーダー研修を行いました。与えられた環境で過ごすのではなくその場で必要な事を自ら生み出していき仲間と協力したり、主体的に考えたり目の前の事を面白がる事が出来る具体的なリーダー像を共有するために行いました。

内容は朝の会からはじまり1日のスケジュールを確認した後、山登りをして頂上に自分たちの拠点を作ったり、火を使ってお風呂を沸かしたり、野外調理をしたり、テントでの宿泊などもしました。

また年間のスケジュールを共有したり、マルシェへのアイデア出しなどの意見を出し合う場も作りました。

夜のピクニック(7月)

夜のピクニックとは、2日間かけて60キロほどの道のりを全員で歩き切るというイベントです。一学期の種まき期を経て、ばらばらだった子供たちの中に少しずつ集団としての仲間意識が芽生え、10代リーダーにはリーダーという自覚も生まれてきました。ここをさらに伸ばすために種まき期から二学期の成長期の間はこのイベントを行いました。膨大な道のりを歩くという未知なる挑戦をしたことで「何事も自ら楽しむ」というリーダー像がより明確になりました。困難なことも仲間とともに乗り越え、面白がることのできた事で、一人一人が達成感や喜びを感じたイベントとなりました。

ふえっこマルシェ(8月)

ふえっこマルシェは、10代リーダーと楽校スタッフが実行委員となってつくりました。イベントの立ち上げから自分たちだけで初めてつくりました。1学期と夜のピクニックを経た

ことでリーダーとして意識が高まり、与えられたことを面白がる段階から、自分たちで考え、仕掛けて作っていく段階へのステップとして行いました。

会場づくり、広告、集客、出店者募集など様々な行程がありましたが話し合いアイデアを出しながら、準備を進めました。子どもたちからの発想をもとに作成したポスターやチラシ、子ども達からの提案で作った竹ブランコは日々の里山での経験を生かすものでした。

このマルシェでのお客様だけでなく、会場の方、地域の方など様々な出会いから生まれる人との繋がりの中で信頼関係が作られていくという事を経験しました。

また、10代リーダーは出店者としても当日関わり、人を楽しませたり、自分達の遊びが価値に変わっていく経験をしました。

年齢や立場関係なく誰もが楽しめるイベントとなりました。

お泊り保育サポート (9月)

里山ようちえんふえっこの行事であるお泊まり保育に低学年がサポートとして参加しました。イベントを作っていく側として主体的に役割を見つけたり、ようちえんスタッフとの関わりを持ったりと日常ではできない経験をしました。

この経験から日常では高学年についていく事の多い低学年がサポートメンバーとしての意義を自ら考えたり、目の前の事に全力で向きあっていく姿があり、リーダーとしての意識が芽生えてきました。

内容は主に施設や道具の掃除、ご飯作りの手伝い、絵本の読み聞かせなどを経験しました。

合同運動会 (10月)

去年に引き続き、里山ようちえんふえっこと里山楽校との合同運動会を行いました。合同運動会では、小学生として、ようちえん見の見本となるような参加の仕方を意識しました。会場のルールを守ることは当たり前で、何よりもどんな競技も思い切り楽しみ、ようちえん見をリードしました。また、運動会で使う道具の準備、タイムキーパー係、ゴールテープ係など裏方としての役割もしっかり行い、運動会を盛り上げました。

修楽旅行 (12月)

修楽旅行は、10代リーダーの総仕上げのイベントです。

何事も楽しむリーダーとして活動し、最後は自分たちだけで、行先、目的、スケジュール、予算全てを2名の楽校スタッフとともにゼロから作り上げ、提案し実行しました。

何のためにそこに行くのか。この修楽旅行を通して、自分たちは何を得たいのか、挑戦したいのか、何度も何度も話し合いました。

10代リーダーからでたこの修楽旅行の目的は「限界突破のチャリ旅」でした。1年間、体力的にも精神的にも大変なことも多くありましたが、それを仲間とともに乗り越え、その先に成長や喜び達成感、自己肯定感を得たことから、さらに挑戦したいとこの目的が出てきたのだと思います。

それに向かって、計画、シミュレーションを行い、協力者を探し、できることは全て行いました。

ただ、この修学旅行は保護者や校長にOKをもらわないと行くことができないという条件でした。

1回目のプレゼンは、見事、やり直し、却下。

なんとかなるだろうと10代リーダーもスタッフも甘えている部分が大いにあることに気づかされました。そこから、やっと本気になり、自分たちで立てた目的と本気で向き合い、自分たちの中にある、怖さに向き合い、本音を出し合うことが出来ました。

表面上でただ面白ければいい、みたいな生ぬるい考えでは自分たちが掲げた目的にたどり着かないことがやっとわかりました。

何度も何度も話し合い、お互いの心を開き、さらけ出し、最後のプレゼンでやっとOKをもらうことができました。

実際の修楽旅行では予期せぬ出来事や体力・精神面などで何度も挫けそうになることもありましたが、同じ目的に向かってお互いに励ましあい、一人ひとりが前向きに考えて無事に修楽旅行を終える事ができました。子どもたちは「仲間に本音を話せるようになったことが自分の大きな成長。」「自分に自信がついた。」など自身の成長について振り返ることができた修楽旅行となりました。

【イケてる大人企画】

イケてる大人企画には、多種多様な大人に出会い、その世界観に触れることで、子どもたちの視野を広げたり、大人になる事が楽しみになるという目的があります。

美容院リトルバグさんでの美容師体験

風舞流曲技太鼓谷口先生の太鼓教室

野遊び名人マリオさんとの山登り

ファシリテーターのプロ米田先生とのリーダー会議

【来年度に向けて】

この一年で培った「何事にも楽しんで取り組む」ことをベースに、「みんなで作る遊びの楽校」のさらなる成長を目指し、コミュニティ作りを検討しています。

活動計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額		
I. 経常収益			
1. 受取会費		45,000	
2. 事業収益		8,253,524	
3. 受取助成金等		240,632	
4. 受取利息	10		
5. 雑収益	359,098		
その他収益		359,108	
経常収益計			8,898,264
II. 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	1,858,911		
臨時雇賃金	2,751,603		
法定福利費	199,683		
福利厚生費	0		
人件費計	4,810,197		
(2) その他経費			
車両費	281,439		
支払保険料	118,800		
食材費	167,675		
消耗品費	498,827		
賃借料	480,000		
施設維持費	1,102,950		
雑費	614,245		
その他経費計	3,263,936		
事業費計		8,074,133	
2. 管理費			
支払報酬料	255,000		
減価償却費	168,744		
雑費	134,796		
管理費計		558,540	
経常費用計			8,632,673
当期経常増減額			265,591
III. 経常外収益			
経常外収益計			-
IV. 経常外費用			
経常外費用計			-
税引前当期正味財産増減額			265,591
法人税、住民税及び事業税			-
当期正味財産増減額			265,591
前期繰越正味財産額			▲ 608,903
次期繰越正味財産額			▲ 343,312

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位:円)

科目	非営利活動に係る事業		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,230,939		
積立金	6,000		
流動資産合計		1,236,939	
2. 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	675,018		
有形固定資産計	675,018		
投資その他の資産			
出資金	200		
投資その他の資産計	200		
固定資産合計		675,218	
資産合計			1,912,157
II. 負債の部			
1. 流動負債			
1年以内返済長期借入金	768,000		
その他流動負債	436,469		
流動負債合計		1,204,469	
2. 固定負債			
長期借入金	1,051,000		
固定負債合計		1,051,000	
負債合計			2,255,469
III. 正味財産の部			
前期繰越正味財産		▲ 608,903	
当期正味財産増減額		265,591	
正味財産合計			▲ 343,312
負債・正味財産合計			1,912,157

非営利活動法人 ふえっこ自然村

財産目録

令和6年3月31日現在

科目	非営利活動に係る事業	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
手許現金	757,320	
ゆうちょ銀行	29,911	
丹波ひかみ農業協同組合	383,708	
中兵庫信用金庫	60,000	
積立金	6,000	
流動資産合計		1,236,939
2. 固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備		
日除け設備	675,018	
有形固定資産計	675,018	
投資その他の資産		
出資金	200	
投資その他の資産計	200	
固定資産合計		675,218
資産合計		1,912,157
II. 負債の部		
1. 流動負債		
1年以内返済長期借入金		
日本政策金融公庫	768,000	
未払金等	436,469	
流動負債合計		1,204,469
2. 固定負債		
長期借入金		
日本政策金融公庫	1,051,000	
固定負債合計		1,051,000
負債合計		2,255,469
III. 正味財産の部		
前期繰越正味財産		▲ 608,903
当期正味財産増減額		265,591
正味財産合計		▲ 343,312
負債・正味財産合計		1,912,157

前事業年度に役員であった者の役員名簿

令和5年 4月 1日 から 令和6年 3月31日まで

特定非営利活動法人 ふえっこ自然村

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	役員報酬の有無
理事長	たけおか まさゆき 竹岡 正行		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	無
副理事長	やまさき はると 山崎 春人		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	無
理事	よねだ あさと 米田 麻人		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	無
監事	はなだ きょうへい 花田 匡平		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	無

前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の名簿

令和6年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 ふえっこ自然村

氏 名	住所又は居所
尾崎真理	[REDACTED]
田中和美	[REDACTED]
米田麻人	[REDACTED]
山崎春人	[REDACTED]
清水真有子	[REDACTED]
石見雅	[REDACTED]
榎木舞	[REDACTED]
中山貴美子	[REDACTED]
吉村康太	[REDACTED]
竹岡郁子	[REDACTED]